【樹木・草花の部屋】

キョウチクトウ（キョウチクトウ科キョウチクトウ属

（Nerium oleander var. indicum）

和名；キョウチクトウ（夾竹桃）　　別名；　英名：oleander
リンドウ目　常緑小高木
原産地；インド
花言葉；「美しき善良」「恵まれた人」「友情」「親友を大切に」
「用心」「危険」「注意せよ」「気をつけて」「油断大敵」
花の色；　桃、黄、白、他

← 写真－１　キョウチクトウの樹幹
撮影日：２０１３年７月９日
撮影場所：ヴァレンナ(Varenna　北イタリア)にて
撮影者：M さん

クルーズ船から下船。桟橋から上陸した時、八重咲のキョウチクトウが目に入りました。　珍しいので、ついパチリ。この村、キョウチクトウがアチラコチラに植えられていていました。よくみると花もそれぞれ・・・。八重、細長、花先が尖っているもの・・・。こんなに花容や色の種類が多いとは・・・。

← 写真－２～５
キョウチクトウの花
撮影日：２０１３年７月９日
撮影場所：ヴァレンナ(北イタリア)にて
撮影者：M さん

普段、高速道路沿いなどに植栽されており、珍しさもなく、そのまま通り過ぎてしまう花ですが・・・。街路樹や高速道路沿いにもよく見られるのは乾燥や大気汚染に強いため。

葉は長楕円形で、両端がとがった形。やや薄くて固い。葉の裏面には細かいくぼみがあり、気孔はその内側に開く。花は、6 月ころから 9 月まで開花。花弁は基部が筒状、その先端で平らに開いて五弁に分かれ、それぞれがややプロペラ状に曲がる。

【樹木・草花の部屋】

←写真－６　キョウチクトウの花
撮影日：２０１３年７月９日
撮影場所：ヴァレンナ(北イタリア)にて
撮影者：M さん

写真－７　キョウチクトウの葉
→
撮影日：２０１３年７月９日
撮影場所：ヴァレンナ(北イタリア)にて
撮影者：M さん

日本では適切な花粉媒介者がいなかったり、挿し木で繁殖したクローンばかりということもあって、受粉に成功して果実が実ることはあまりありませんが、ごくまれに果実が実ることもあるそうです。果実は細長いツノ状で、熟すると縦に割れ、中からは長い褐色の綿毛を持った種子が出てくるそうです。

＜ちょっとひとこと＞

毒　性：キョウチクトウには、経口毒性があり、野外活動の際に調理に用いたり、家畜が食べたりしないよう注意が必要です。枝を箸代わりに利用し、中毒になった例があるそうです。その毒性は青酸カリよりも強いとも言われ、花、葉、枝、根、果実すべての部分と、周辺の土壌にも毒性があるそうです。生木を燃した煙も毒。腐葉土にしても 1 年間は毒性が残るため、腐葉土にする際にも注意を要します。身近にある植物ですが、かなり、注意を払う必要のある植物のようです。

中毒症状としては、その他

・摂取した 1 時間後辺りに、疝痛、下痢、頻脈、運動失調、食欲不振などがある。
・フランスでキョウチクトウの枝を串焼きの串に利用して死亡者が出た例。
・1980 年に、千葉県の農場で牛に与える飼料の中にキョウチクトウの葉が混入する事故。
　この飼料　を食べた乳牛 20 頭が中毒をおこし、そのうちの 9 頭が死亡。
　混入量は、牛 1 頭あたり、乾いたキョウチクトウの葉約 0.5g 程度だったといいます。

一方、キョウチクトウには、オレアンドリンなど様々な強心配糖体が含まれており、強心作用がある。他に利尿作用もある。しかし、同種は非常に毒性が強いため、素人は勿論、処方してはならない。

育て方：暖地で砂質土を好む。アルカリ性土壌にも、乾燥にも強く、樹勢強健であるが寒さに弱い。日当たりの良い場所に植える。4～5 月にキョウチクトウアブラムシが発生するので防除します。また、風通しが悪いとカイガラムシが発生しやすいので注意を要します。

剪　定：花後に行う。強剪定は翌年の花つきが悪くなりますが、2～3 年後には回復します。弱度の剪定を行う。密生枝や高く伸びすぎた古枝は、根元から切り取るか、枝分かれした部分で一方を切り取る剪定を行います。